

## ウメ<sup>とうじ</sup>‘冬至’<sup>こうとうじ</sup>と‘紅冬至’ (バラ科)

極早生品種のウメ。極早咲き品種‘冬至’が咲いています。

対面の<sup>やえかんこう</sup>‘八重寒紅’も例年は1月中旬～咲き始めますが、蕾が色付き、開き始めています。展示資料館裏ではほんのリピンクに染まる‘紅冬至’をご覧いただけます。展示資料館裏のサザンカが咲く階段を上って、あずまや手前の左斜面に植栽しております。

## ギョリュウモドキ (ツツジ科)

カルーナ・ブルガリスの和名。ヨーロッパを中心に、ほかの植物が育ちにくい冷涼な気候で、やせた酸性土壤に分布しています。ウスキー作りに蜜、枝をほうきに利用するなど馴染み深い植物です。イギリスの荒野‘ヒース’を構成する植物の一つでもあります。冷え込みが厳しくなってきたこの時期、株全体が紅葉し、ロックガーデンで存在感を増しています。

## クレマチス

### ウンナンエンシス

(キンポウゲ科)

中国原産の常緑冬咲きクレマチス。斜面上部に、開くと反り返る白色のがく片をたわわにつけています。未だほとんどが蕾ですが、いよいよ開き始めました。

## サボテン温室

短日植物のアロエ(エリ科)やカランコエ(ベンケイソウ科)のさまざまな品種が花茎を伸ばし開花しております。未だ蕾を立ち上げたものもありますが、普段は観葉植物や薬用植物としてよく見かける植物の開花した姿を是非ご覧ください。

## 大温室改修のため休館

ニューアルオープンが平成29年秋ごろ(予定)です。

## カンキツ類(ミカン科)

オオミレモンを始め、シラヌヒ、クネンボウが実をつけています。実際に樹に生っている姿をご覧ください。

## カランコエと冬の鉢花展

沖縄の絶滅危惧種リュウキュウベンケイの血を引いた新品種‘ちゅららイエロー’他を展示。葉にむかごができる、ランナーの先に子株ができるなど得意な殖え方をする野生種を一同に展示しています。他にシクラメン、プリムラなどの冬の室内を飾る鉢花も展示しています。

## ソシンロウバイ

(ロウバイ科)

芝生広場奥の早春の花木植栽区では、黄色く色付いた蕾が緩み始めています。蠟細工のように艶やかな梅に似た花をご覧ください。

## 日本水仙

(ヒガンバナ科)

海岸沿いに多くの名所がある日本水仙が、サクラ園の斜面でも盛りを迎えています。斜面のため足元に注意して近付いていただくと、早春の香りもお楽しみいただけます。

## マンサク(マンサク科)

日本の本州の太平洋側から九州にかけて分布する落葉小高木です。名前の由来は早春に咲くことから、まず咲くから来ていると言われていす。

## 植物写真コンテスト作品展

植物写真コンテストで入賞した写真62点を展示しています。芸術的な作品からほっとするスナップまで様々な作品が見られます。

